

今月の一言

キーワード：理想の上司

産業能率大学が毎年発表している新入社員に聞いた「理想の上司」の変遷は、各時代を反映した経済事情や世相が読み取れる。

1998年～2006年 就職氷河期・長引くデフレ：低迷する組織を再生するリーダーシップ

長嶋茂雄・所ジョージ・北野 武・星野仙一

就職氷河期・長引くデフレで会社も活力を失い、組織を再生し元気づける上司が最も理想と考えた時代

2007年～2008年 いざなみ景気末期：親近感

所ジョージ・古田敦也・星野仙一・イチロー

肩の力が抜けた親近感の持てる兄貴タイプが理想の上司

2009年～2014年 先行きへの不透明感：組織に依存しないスキルと自信

イチロー・池上 彰・阿部 寛・水谷 豊・堺 雅人

リーマン危機に続き、東日本大震災や原発事故が発生。先行きが一段と不透明になると、組織に依存しないスキルや自信に脚光が集まる。

所ジョージさんは、17年間を通じてトップ10に必ず顔を出してきた常連。親近感と兄貴タイプで癒しや融和を求める人が支持して、理想の上司として今後も常連を続けるでしょう。

時代によって変化するが 常連の魅力は強い

2014年5月23日

さいのう とおる

追伸：6月は、安全準備月間です。衣替えの時期です。準備と対応をお願いします！